

【2020年度/総合基礎科目領域/人間基礎科目群】

科目名		ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
異文化比較論			選択	1	1.2	前期
担当教員		研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
井上 美奈子 他		311	minoue		月・火 12:10 ~13:00	
授業の目的・概要	異文化比較論では、様々な国や地域で生活している人々を理解するために、言語や家族関係、生活スタイルや食文化、祭りや習慣などを具体的に学習し、地球規模での相互理解を深めることを目的とする。また、文化の相違を客観的に分析することによって、異文化理解の問題や課題を理解し、異文化コミュニケーションの基礎となる他者を尊重する態度を身につける。本講義では、異なるバックグラウンドまた文化環境をもつ教員が同時双方向型授業を通しオムニバスで講義する。					
学習上の助言	異なる文化を「面白い」と思うことが大切である。また同時双方向型授業においては、積極的に参加、発言することが重要となる。					
教科書	指定しない。					
参考書	各教員がアドバイスする。					
学生が達成すべき行動目標					関連卒業認定・学位授与方針	
①	諸文化、諸外国の人々を公平に見ることのできる力を身につける。				HSU (1)、(2)、(5)	
②	異なる文化について学修し、異文化や他者を理解する力を身につける。				HSU (1)、(2)、(5)	
③	異なる文化の中で暮らす人々を理解し、コミュニケーション力を養う。				HSU (1)、(2)、(4)	
④						
⑤						
⑥						
授 業 計 画						
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)			
1	クラスオリエンテーション 授業の流れの説明を受け理解する。異文化・日本文化について講義やクラスディスカッション、教員への質問、教員からのフィードバックを通して学びを確立する。 [担当：井上]	同時双方向型授業	講義ノートを整理する。メディアとは何か調べる。		4	
2	映画、音楽、報道などのメディアを通して異文化の理解を深める。映画鑑賞やディスカッション、教員からのフィードバックで異文化に対する知識や態度を学ぶ。 [担当：井上]	同時双方向型授業	講義ノートを整理する。次回クラスのテーマについて調べる。		4	
3	日本文化との比較を通し韓国文化を理解する。授業では意見交換、学生からの質問とそのフィードバックから理解を深める。 [担当：成]	同時双方向型授業	講義ノートを整理する。次回クラスのテーマについて調べる。		4	
4	チェスや将棋の体験を通して歴史や文化を学び理解を深める。授業では学生からの質問に対しフィードバックを行う。 [担当：スタージョン]	同時双方向型授業	講義ノートを整理する。次回クラスのテーマについて調べる		4	
5	多種多様な人種が混在しているアメリカの実際を学び関連する諸問題や課題について考える。授業では学生からの質問に対しフィードバックを行い、活発な意見交換の場を提供する。 [担当：スタージョン]	同時双方向型授業	講義ノートを整理する。次回クラスのテーマについて調べる		4	
6	陰陽・五行思想を学習することで中国伝統文化を理解する。授業では学生からの質問に対しフィードバックを行い、活発な意見交換の場を提供する。 [担当：金]	同時双方向型授業	講義ノートを整理する。次回クラスのテーマについて調べる。		4	
7	中国伝統文化が健康意識 (養生) に与えた影響について学習する。授業では意見交換や質問に対するフィードバックを行い、より深い知識が得られるようにする。 [担当：金]	同時双方向型授業	講義ノートを整理する。次回クラスのテーマについて調べる。		4	
8	比較文明、比較経済を通して異文化を学ぶ。授業では学生からの質問に対しフィードバックを行い、より深い知識が得られるようにする。 [担当：松崎]	同時双方向型授業	講義ノートを整理する。半期の授業ノートを通して学びの総復習をする。		4	
試	レポート試験 達成度評価・評価のポイントを参照					

【2020 年度/総合基礎科目領域/人間基礎科目群】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		0	50	0	0	50	100
総合 力 指 標	知識・技術力	0	10	0	0	0	10
	思考・推論・創造する力	0	10	0	0	10	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	10	10
	発表・表現伝達する力	0	10	0	0	10	20
	コミュニケーション力	0	10	0	0	0	10
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10
	問題を発見・解決する力	0	10	0	0	10	20
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	レ	教員 5 人がそれぞれに評価点 10 点をもつ (10x5=50 点)。どのように評価するかは各教員の最初の授業で説明する。授業を通し学んだ異文化理解に関するレポートやクイズなどを行い評価する。オムニバスの授業形式なので各回の講義をよく理解する必要がある。評価は、思考・推論・創造力、表現力、問題意識力、課題解決力に対して行われる。				講義中、および講義関連ファイルで解説、および総評を行う。
	②	レ					
	③	レ					
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	レ	各授業回でリアクションペーパーの提出を求め、それによる学習参加、理解度チェックを行い評価する。リアクションペーパーには、個々の講義で理解したこと、疑問に思うこと、新しい提言などを記述する。内容の妥当性、問題発見能力を評価 各回 5 点満点とする。(8 x 5=40 点) また授業に対する取組みの姿勢や意欲を 10 点満点で評価する。				講義中、またはメールで総評を行う。
	②	レ					
	③	レ					
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
<p>Teams をつかった同時双方向型授業を行う。課題ダウンロード、DVD 鑑賞などを行うことがあり授業時は通信容量が無制限の Wi-Fi 環境を奨励する。</p> <p>尚、今後の新型コロナウイルス感染症の社会情勢によって再度シラバスの変更が行われることもある。</p> <p>担当教員：@井上 美奈子, 松崎 昇, 金 信敬, 成 昌燮, ジェイソン・スタージョン</p>							